



発行／小諸市公民館
編集／館報編集委員会
〒384-0801
長野県小諸市甲1275-2
☎0267-23-8880



日溜まりの
福寿草
凍った土の中で
よくぞ耐え抜き
今陽を浴び輝く

高橋 敬三

五行歌で 四季をうたう

〈五行歌とは〉思ったことをそのままのことばで、五行に表す新しい形式の歌。全音数や季語などの制限はありません。

こもろ五行歌の会

※写真撮影は会員の倉本妙子さん

子どもの頃、冬真つ盛りの二月といえ、手や足にしもやけができ、早く春よ来いと望んだものです。冬から春への変わり目は、節分に豆まきが定番でした。節分の日の夕方、家々では親子が一緒になつて大きな声を出し「鬼は外」「福は内」と豆まきを行い、子ども達はまかれた豆を拾い歳の数に一粒足して食べると一年間無病息災で過ごすことができると言われたものです。

昭和五十年頃、関西のノリ問屋が考えだした太巻き海苔巻きを恵方の方向に向き、無言で一気に食べると…。これをコンビニ大手の会社が面白いと取り上げて広めたのが現在行われている恵方巻です。商業ベースで始められたことですが、バレンタインデーや恵方巻と新しい行事が日々の生活に定着し、生活に潤いをもたらしている様に思われます。これは平和な時代が与えてくれた贈り物。大切に、末永く大いに楽しみたいものです。

編集委員 久保島 毅

